

平成29年度 学校評価(県立加古川東高等学校)

めざす学校像
「世界のリーダーを育てる環境」で学力を、「笑顔を大切に作る校風」で人間力を育む学校

本校のミッション
校訓の「自治創造」、「明朗親和」にもとづき、未知の課題に対応しうる豊かな知識、教養を獲得し、多面的・客観的視野と思慮深さをもつて、21世紀の地域・日本・世界が直面する課題を展望し、自己の良心と責任において、他者と協働しつつ課題解決に向けて行動・発信できるリーダーを育成する。

学校経営の重点
1 理数科を柱に、将来の高大接続への展望を踏まえた教育の推進 2 生徒の個性の開発・伸張を図るとともに、道徳性の涵養・育成を図る教育の推進 3 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の継承と発展
4 普通科における「探求活動」の取り組み 5 学校評価の取組を更に進めるとともに、「開かれた学校」づくりの推進

学校自己評価 年度評価 A:年度目標に対する評価がA・Bが8割以上 B:年度目標に対する評価がA・Bが6割以上 C:年度目標に対する評価がA・Bが4割以上 D:年度目標に対する評価がA・Bが4割未満

重点部・学年	評価項目	年度目標				年度評価				達成状況	評価	次年度への課題と改善策
		実践目標	実践内容	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)					
5	家庭や地域への情報発信	[重点] ・メールマガジン・ホームページの充実を図ることにより、情報発信のいっそうの強化を進める。特に、第3学区への広報活動をさらに充実させる。	・前期に中学校訪問を行い、PRIに努める。 ・毎週1回のメールマガジンを発行する。 ・学年ごとに情報発信できるよう、メールマガジンのグループ分けを実施する。 ・新着情報については、速やかにHPにアップする。	38	59	3	0	・第3学区内の中学校を訪問、個別の中学校や塾主催の説明会にも参加。来年度の定員が1クラス減になったにもかかわらず、オープンハイスクールには、810名の参加が得られた。 ・メールマガジンは週一回の発信に加え、号外も発信した。また、学年ごとのグループ分けも行き、利便性を向上させた。HPも行事の実施後速やかに写真等をアップした。	A	・新入生、保護者に、緊急時の連絡にも対応しているという観点からも、メールマガジン登録を強く呼びかけ、情報の共有化の徹底を図る。 ・中学校訪問用の学校案内の作成に早めに着手し、魅力あるものにする。 ・HPで、ふるさとひよご寄附金(県立学校応援プロジェクト)のPRIに積極的に努める。		
	学校評議員制度を活用した学校運営の推進	[重点] ・適切な情報を提供するとともに、要望・意見を聞き取り、PDCAによる学校運営の活性化に活かす。	・学校評議員会を年2回実施し、学校評価に有効な情報を提供し、聴取した意見を速やかに検討し、学校運営に反映させる。	11	74	14	2	・管理職と相談・連携し、いただいたご意見、評価のうち、対応可能な案件に関しては常に検討している。	A	・常に防災マニュアルを見直し、追加・改訂すべき事項には速やかに対応して、あわせて、防災・避難訓練の内容を工夫し、マンネリ化にならないよう配慮したい。		
	家庭・地域・関係機関との連携した危機管理体制の確立	[重点] ・防災マニュアルの点検・見直しを進めることでさまざまな危機に対応できる体制を整え、家庭・地域・関係機関と情報を共有することにより、防災・危機管理意識を高めるとともに、教職員の指導力・実践力の向上を図る。	・地域・関係機関と連携し、防災マニュアルを改訂する。 ・年2回(内1回は地域と合同)、避難訓練を実施する。 ・年間5回程度、防災に関する情報提供を行う。	26	62	12	0	・防災マニュアルについては、毎年見直ししており、災害対応、危機管理対応など幅広く対応できるよう改訂を行った。 ・地元町内会と合同の避難訓練は定着してきており、交流はもちろんのこと、現実に災害が発生した際の具体的な協体制を整えつつある。 ・例年実施している地元町内会と合同のピオーソ清掃活動と相まって、地域との一体感を形成・維持することに役立っている。	A	・生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材を育成するために、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく学習への転換が求められている。そのための研修をより一層充実させると共に、その効果の検証も行なっていく。		
2	計画的な教科指導	[重点] ・生徒の実態に即したシラバスを作成し、シラバスに従った効果的な指導および評価を行う。	・各教科においてシラバスの作成。	13	64	22	2	・昨年と比べて、C評価19%→22%、D評価2%と後退している。担当者によって科目の目標、教える内容、評価の観点と方法にばれがないように、シラバスを有効に活用してほしい。	B	・生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材を育成するために、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく学習への転換が求められている。そのための研修をより一層充実させると共に、その効果の検証も行なっていく。		
	教科指導力の向上・改善	[重点] ・公開授業や授業アンケート等、授業研究を行うことにより魅力的な授業づくりを進めるとともに、主体的・対話的で深い学びを通して生徒の思考力・判断力・表現力を養う授業づくりを工夫する。	・公開授業、授業後の授業研究会を持ち、今後の授業に生かすことをねらいとして成果や課題について意見を交換した。 ・主体的・対話的で深い学びに関する研修や研究授業も実施した。 ・授業カンファレンスを定期的に実施した。	40	52	6	2	・昨年と比べて、C評価19%→6%、D評価4%→2%と改善している。研修等を通して主体的・対話的で深い学びにつながる授業になるよう、指導法改善に精力的に取り組まれていることが考えられる。	A	・現在JAPAN e-ポートフォリオの導入、もし計画の見直し、英語4技能テストの導入について、校内で議論を始めている。大学入試の要件に対応しつつ、生徒の資質の向上を目指す方策を講じていきたい。 ・昨年度から実施している医学科進学講演会は、参加した生徒・保護者・職員から好評を得ている。医学科進学希望者が意欲を持って学習に取り組めるよう、来年度以降も継続して実施し、医学科への進学意識を高めていきたい。 ・「先輩の話を聞こう」に協力してくれる卒業生人材を広く開拓して、一層充実させたい。		
1・2・4	進路指導部	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	[重点] ・進路講演会やOB講演会の充実を図るとともに、キャリア研修の機会を設け、キャリア教育を推進する。	・進路講演会(1・2・3年全員) ・進路説明会(PTA理事) ・先輩の話を聞こう(1・2年全員) ・進学に伴う経済事情についての講演会(2年保護者希望者) ・1年生キャリア研修 ・医学科進学講演会(1・2年及び保護者希望者)	47	49	3	1	・プラス評価が96%と高評価であり、マイナス評価はやや減少している。おおむね達成されていると考えてよい。しかし、昨年度のA評価からかなりポイントを下げている。その原因を職員全体から聞き取って究明するとともに改善にあたりたい。	A	・現在JAPAN e-ポートフォリオの導入、もし計画の見直し、英語4技能テストの導入について、校内で議論を始めている。大学入試の要件に対応しつつ、生徒の資質の向上を目指す方策を講じていきたい。 ・昨年度から実施している医学科進学講演会は、参加した生徒・保護者・職員から好評を得ている。医学科進学希望者が意欲を持って学習に取り組めるよう、来年度以降も継続して実施し、医学科への進学意識を高めていきたい。 ・「先輩の話を聞こう」に協力してくれる卒業生人材を広く開拓して、一層充実させたい。	
2	生徒指導部	規範意識の向上	[重点] ・全教職員の共通認識のもと、生徒の規範意識の向上に取り組む。	・学校に不必要なものは、持ち込まない指導をおこなう。	6	73	21	0		B	・生徒の規範意識や、基本的な生活習慣にしても教師から直接的に行う指導だけでなく、生徒会の風紀委員会や監察委員会、美化委員会などを中心に生徒自身の自覚を促す指導を行いたい。登下校時のマナーについても、生徒自身で考える機会を与えたい。	
		いじめのない学校づくりの推進	[重点] ・いじめ防止に関する推進体制を整え、未然防止、早期発見、早期対応に努める。	・交通ルールを守り、周りに配慮して通学するよう指導する。	7	46	46	1	・徒歩通学生については、何度も集会等で注意した結果、かなり改善ができています。 ・自転車の通学マナーは、以前改善できたとは言えない。軽車両は車両であるという意識があまりなく、スクエアドストレートなどを実施したい。	C		
		生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	[重点] ・自治創造、明朗親和の校訓のもと、生徒会活動を中心にあらゆる教育活動を通して生徒一人一人の自主性、自律性を育む。	・服装の見直しについて、生徒会の監察委員会、風紀委員会で検討し、実践する。	29	60	9	1	・勉強、進路、人間関係等が理由と考えられる不登校や精神的疾患については、昨年より、減少傾向にあるが、丁寧に面談、カウンセリング等を繰り返していく必要がある。	A		
3・4	理数科や自然科学部で取り組んできた能動的・体験的な活動の普通科への波及	[重点] ・普通科での「探求」や授業、校外学習等で、グループワークや発表など能動的・体験的な取組を増やすとともに、理数科のプログラムに普通科生徒が参加する機会を増やす。	・総合的な学習で「探求Ⅰ」を実施(19時間)、英語によるプレゼン大会。 ・各教科のアクティブラーニング型の授業で、グループワークを実施。 ・臨海実習…理数科5人、普通科9人参加。	44	47	9	0	・昨年度同様の質問項目の結果に比べ、良い評価が増えた。	A			
3	理数科SSH推進部	理数科における「研究力」「発信力」の育成	[重点] 理数科において、科学的に思考し主体的に課題に取り組む「研究力」とデータや推論過程を的確に示して第三者に意見を伝える「発信力」を育成する。	・第3期SSHにおいて、新たな学校設定科目を設置したカリキュラムを学年進行で実施。	45	51	4	0	(関連事項:理数科以外での活躍) ・自然科学部物理班がSSH研究発表会で文部科学大臣表所、地学班が高校環境化学賞 松井記念賞(全国1位) ・数学・理科甲子園で(「科学の甲子園」県予選)で第2位。	A	・普通科2年次の「探求Ⅱ」と1年次の「探求Ⅰ」の実施方法の改善。 ・理数科「学校設定科目」や「課題研究」の充実。 ・台湾研修の充実。	
		海外の高校との連携	[重点] ・理数教育の盛んな海外の高校と連携を取り、生徒間の交流を図る。	・台中女子高級中学との交流。 ・台湾海外研修。	31	54	12	3	・昨年度同様の質問項目の結果に比べ、良い評価が増えた。 ・第3期SSHより、台湾研修を行うこととした。	A		

4		「探求活動」の推進	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年「探求」の円滑な実施 ・来年度に「向け、2年「探求」の準備を進める。 	<p>全19時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マシュマロチャレンジ ・オリエンテーション ・データ収集の学習 ・データ分析の学習①② ・ミニ課題研究①②③ ・発表会 ・クリティカルシンキング①② ・英語によるミニ課題研究発表会 	41	56	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組みであるので、走りながら授業案を練ってきた。1学年団と綿密に打合せを行った。生徒にも教員にも概ね満足の内容になった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、2学年団に加えて専門部の教員にも課題研究の指導をお願いすることになる。生徒のグループ分けやテーマ設定、各グループの教員への割り当て、円滑で有意義な実践など多くの課題がある。今年度のうちにできるだけ準備をしておきたい。 ・県下で唯一、生徒主体の討論型人権学習を実施していることを特長とする。討論の質の確保がここ数年の課題となっているが、実施に当たって、教員から生徒への働きかけ・仕掛けが成否を左右する。特に、テーマ学習会(模擬討論)の質の向上が今後とも課題になる。
2	教育企画部	人権教育の推進	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームを中心に人権意識の向上を図り、主体的に差別の解消に取り組もうとする生徒を育てる。 <p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームの成果と課題を踏まえ、次回の人権ホームルームに活かす取組を行う。 	<p>人権講演会</p> <p>「今までとこれから」</p> <p>人権HR</p> <p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ鑑賞・東高入教のアンケート ・討論「『いじめ』について」 ・討論「障害者問題」 ・部落の歴史学習Ⅰ <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部落の歴史学習Ⅱ[近代・現代史] ・討論「部落差別の問題」 ・討論「外国人差別について」 <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論「就職差別」 ・討論「結婚差別」 	14	76	9	2	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、探究活動が本格実施となり人権ホームルームの回数が2・3年で1回ずつ少なくなり、企画・運営面でもかなり周到な準備が求められるようになった。 	A	
2	保健部	教育相談の充実	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスカウンセリングに関する情報を提供し、計画的にカウンセリングを実施するとともに、個々の内容に対し、関係機関と連携しながら適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強、学校生活への不安や、人間関係の問題等の心的な要因により、精神的に不安定となり、相談的な対応を必要とする生徒が増えている。そのため、生徒が安心して、相談しやすい保健室の雰囲気をつくり、心に悩みを抱えて来室する生徒との関わりを大切にしたい。 ・個々の生徒について、キャンパスカウンセラー、教育相談委員会、学年、家庭、関係機関との連携を図りながら、問題解決に取り組んだ。 	37	48	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みを抱える生徒に対して個々に寄り添うことを心がけ、ケースに合わせて学年・関係職員、家庭、カウンセラーや医療機関と連携を図ることができた。キャンパスカウンセリング及びカウンセリングマインド研修会についても、計画的に実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒への対応やカウンセリングについては、今年度の取り組みを継続し、充実できるように努める。さらに、カウンセリング等の情報発信の推進を図りたい。 ・授業時間の確保が求められるなか、大掃除の時間確保が難しい現状と、施設・設備の老朽化の問題など課題はあるものの、生徒会美化委員会の活動をより充実させ、通常清掃で校内美化に力を入れるよう呼びかけることで、さらなる生徒の美化意識の向上を図りたい。さらに清掃指導・安全点検を徹底させ、より効率的な方法を考え、校内美化に努めていく。また来年度、大掃除の回数増加も検討し、大掃除の時間設定にむけて調整を行う。 ・救急体制については、本年度の取り組みを継続し、実際の場面を想定したシミュレーション訓練を行い、救急体制の確立と定着、危機管理意識の向上を目指していく。
2	保健部	安全管理・校内美化等の環境整備推進	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係各部署及び生徒会美化委員会と連携し、校内の安全管理と美化を図り、環境整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会美化委員会を通じて、通常清掃で校内美化に力を入れるよう呼びかけ、生徒の美化意識の向上を図った。 ・長期休業前に美化委員・職員で協力して安全点検を実施し、環境整備推進に努めた。 	12	66	18	4	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の安全管理と美化意識に関して、計画的な安全点検の実施により、改善が必要な施設・設備の状況を把握し、改善への働きかけを行うことができた。校内の美化に関しても、美化意識の向上を図ることができた。 	B	
2	保健部	校内救急体制の確立	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急法を身につけ、救急体制の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時の救急体制の確立と危機管理意識の向上を目指し、職員を対象に、各学年及び専門部に分けて緊急時を想定したシミュレーション研修を行った。研修を通じて、症状に対する対応、医療機関への搬送、学校・医療機関・家庭との連絡体制の確認を図っている。また加古川中央消防署の協力のもと、AED心臓蘇生法の講習を、職員・PTA対象に実施。生徒対象には、保健体育科とともに、1年生対象にAED心臓蘇生法講習会及び搬送法の研修、2年生対象に緊急時のシミュレーション研修を実施した。 	43	54	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・救急体制の確立に関して、AED講習会や、緊急時対応研修、エビベンを使ったアナフィラキシー対応研修を実施することで、救急体制の確立ができ、危機管理意識が向上した。 	A	
1・2・4	第1学年	加古川東高校の文化への慣れと自己実現への基礎力の習得	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の良心と責任において行動し、「自治創造」の意義を理解し、それを体現できる集団作りをめざす。 ・基礎基本を大切に、学習習慣と学習方法を身につけるように導く。 ・「探求」学習の意義を理解し、思考力、判断力、表現力、発信力を身につけさせる。 ・協働する機会を多くし、主体性、多様性、協調性を育む環境を整える。 ・人権意識を涵養し、正義感のもと行動し、共感力の高い生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション ・学年大運動会 ・クラス討論 ・ネット問題講演会「SNSの使い方」 ・学びみらいPASS ・進路HR ・学年集会 ・キャリア講演会 ・保護者会 ・早朝補習 ・夏季補習 	35	63	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね、計画通り、期待通りに進められている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科への「課題研究(探求学習)」本格実施にあたり、システムづくりが急務である。今年度は学年で統一の教材、進行方法で、教育企画部と学年担当の指導のもと実施したが、次年度は、それぞれ異なるテーマでの探究となるので、教員と生徒との密なるコミュニケーションと深い理解と実践力が求められる。教員間の一層の情報交換と生徒の意識改革を推進していく。
1・2	第2学年	中間学年として加古川東高校を支える意識の醸成	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自己の責任において自ら行動できる生徒たちの集団作りを目指す行事を企画・立案・実施する。 ・人権意識を高揚させ、正義感のもと行動できる生徒を育てるとともにお互いの能力が共鳴し合う集団作りを目指す。 ・進路実現を目指して、持続可能な学習が計画的にできるような環境を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日遠足 ・修学旅行 ・探求学習「行動のための提案」(MaSuAcⅡ) ・クリティカル・シンキング入門 ・「3か月行動行程表」及び学年通信「LOSAS」の随時発行 ・進路講演会 ・オープンキャンパス参加(夏季休業中)及びレポート作成 ・進路HR ・進路集会 ・早朝補習 ・夏季補習 	27	65	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね、計画通り、期待通りに進められている。 ・協働して行事に取り組む態度や様々なことにチャレンジする姿勢が育ちつつある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて各方面が連携した一層サポート体制を構築する。 ・学習面や進路決定で悩みを抱えている生徒も少なからずいるので、メンタル面でのサポートに心掛ける。
1・2	第3学年	最高学年としての自覚と個々の進路実現	<p>[重点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の良心と責任において行動し、「自治創造」できる集団をつくる。 ・卒業後の進路実現を目指し、計画的、継続的な学習を促す。 ・人権意識を涵養し、正義感のもと行動できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台中女子高級中学との交流会 ・保護者会 ・早朝補習 ・夏季補習 ・1日遠足 ・小論文講演会 ・特別授業 	30	66	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣、生活態度が確立してきた。早朝から多くの生徒が登校し学習し、放課後や休日でも遅くまで残って自習し、仲間と教え合いながら良い雰囲気の中で受験に臨むことができた。 ・文化部発表会、体育祭など学校行事において、加古川東高生らしい成果を挙げた。人権教育講演会や人権ホームルームなどで、自分自身を見つめる力を養った。 ・部活動などの課外活動においても、全国表彰を受けたり、近畿大会(関西大会)出場をはじめ、多くの部ですばらしい成果を挙げた。文武両道の加古川東高の伝統を継承できた。 	A	

学校関係者評価

2月5日(月)の第2回学校評議員会(学校関係者評価委員会)において、「おおむねできている」、「交通マナーについては、引き続き指導をお願いしたい」との評価を得た。